



山陽スピリッツ ニュース

2015(平成27)年10月13日
学校法人 山陽学園 発行

全国に響いた

「♪ のどけきはるの～」

「赤とんぼ」「この道」などの作曲で知られる「日本音楽界の父」山田耕筈が没後 50 年を迎えた今年、NHKでは特集が組まれました。10月2日の放送終了後には、「全国放送で校歌が流れ、山陽さんであることを誇りに思った」「校歌が懐かしい」など同窓生からの反響がありました。

その番組『時代を楽譜に刻んだ男 山田耕筈』が好評につき再放送が決定しました。なんと偶然にも10月18日、創立記念日なのです！

今年の創立記念日は日曜日、式典は金曜日に行われますが、皆さん、テレビの前で「♪ のどけきはるの～」と歌ってお祝いしましょう！

「コーちゃん」と呼ばれた山田耕筈

大音楽家になった山田耕筈は、この山陽にも足を運びました。その際「幼な友達の上代先生は、今でも「コーちゃん」といってください。「コーちゃん」といってくれる人はもうこの世の中に上代先生しかいらっしゃらなくなりました。この学校へ来て、昔のことが色々と思い出されてとてもうれしい(『上代先生を語る』昭和15年卒同窓生より)」と語ったそうです。

「上代先生」は、上代淑(かじろ よし)先生のことです。アメリカ留学を終えて再び山陽で教鞭をとり88歳で亡くなるまで、明治・大正・昭和の山陽の激動の時代を支えた教育者です。山田耕筈が少

年だった頃、門田屋敷の三友寺(さんゆうじ)で暮らしていたことがありました。それは耕筈の姉・恒子が山陽で音楽と英習字を教えていたからです。恒子もまた岡山時代に親しく交流した人物として「上代淑」先生の名前をあげています。

山田耕筈に音楽の影響を与えたエドワード・ガントレットは、恒子の夫です。東京でオルガン奏者として活躍していましたが、英語教師として岡山に赴任、山陽でもオルガンの腕前を披露しました。

留学帰りの上代淑先生はガントレット夫妻、そして山田耕筈らと「ゾボーバンド」を結成。西洋音楽が一般的でなかった時代、山田耕筈はこうした岡山の暮らしで、音楽の道に進むことを決意します。

山田耕筈を「コーちゃん」と呼ぶほど仲良しだった上代淑先生、そのため山陽学園には山田耕筈やガントレット夫妻の貴重な写真が今も残されているのです。東京から来られた取材班の方々も「山陽学園にこんなにたくさん史料があるなんて思いませんでした！」と驚かれていました。



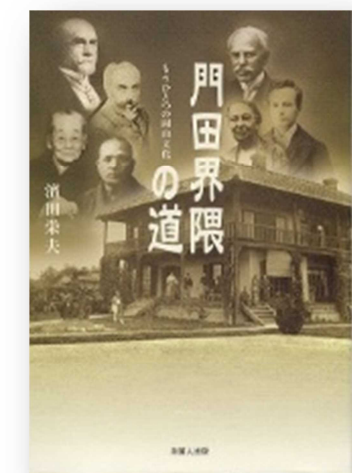
声で奏でる楽器(ゾボー)を米国から取り寄せ結成された「ゾボー・バンド」。三友寺で撮影された写真は山陽学園の上代淑先生のアルバムにも残されていた。前列右端には上代淑、左端に耕筈の姉・ガントレット恒子、後列右端から山田耕筈とエドワード・ガントレットが並ぶ。

なぜ山陽に取材が？

NHKの取材の方が山田耕筈に音楽の影響を与えた「エドワード・ガントレット」という人物を探していたところ「ガントレットのことなら…」と紹介された

のが山陽学園大学副学長の濱田栄夫先生でした。

濱田先生は『門田界限の道もうひとつの岡山文化』（吉備人出版）という著書の中でガントレットについてもお書きになっています。



こちらもぜひ読んでみてください。皆さんの学ぶ、山陽学園の地が特別な場所であると感じられるはずです。

歌い継がれる山陽精神

取材当初、校歌の撮影予定はありませんでしたが「山田耕筈が岡山にいた1901(明治34)年頃から歌われている歌はありませんか？」というお尋ねがありました。山陽学園の校歌・学園歌は1898(明治31)年頃、当時校長であった宇野光三郎が讃美歌に日本語の歌詞をつけました。全国的にも「二部合唱」「学校名が入らない」という学校歌は珍しく「それならば」と急遽、撮影することになりました。

明治・大正・昭和・平成を通して歌い継がれたこの歌が、創立130周年を来年に控えた今年、多くの人々の尽力により、奇跡的に全国の同窓生の耳にも届けられることになりました。

番組を観た同窓生の感想

● 「時代を楽譜に刻んだ男」という番組を見て、色々知りたかった事が頭の中で繋がっていく興奮を覚え、見入ってしまいました。山陽学園の校歌は卒業した今でも気がつけば口ずさむ不思議な魅力と興奮を感じています。学校で歌った日から五十年たったと思えない、新鮮さです。山田耕筈さんについてこんなに詳しく知ることが出来た上に上代先生のお写真をテレビで見られて幸せでした。今度は上代先生の番組を作っていただければ嬉しいです。

● 県外に住んでいるからか懐かしく感じました。現役の山陽さんたちが校歌を歌っているのが流れて、非常に嬉しい！校歌は、同窓生としては特別なもの。山陽学園だけでなく学校のプライドのようなもの。受け継がれていることを改めて嬉しく思い、讃美歌の旋律だったとは知らず、びっくり！番組は、山田耕筈氏の生涯を短い時間でまとめられていてわかりやすく、また多くの方々からインタビューとして証言してもらうことで語られる真実がありました。多面的に考える良いきっかけになり、私の頭の中に新しい風が吹きました。お知らせしてくれて、感謝！

その他にも「山陽にゆかりがあったとは！」「親近感がわいた」など多くの反響が届いています。

文化や芸術は、時代が混乱するとその必要性が一番に問われ急速に失われていくものです。

また、育てるにも時間がかかり、一度失われてしまえば、それまでのレベルに到達することは容易ではありません。

何かを守るために自分を犠牲に出来るか、時代に翻弄される山田耕筈を俳優の石丸幹二さんが熱演しています。皆さん、お見逃しなく！

Eテレ特集「時代を楽譜に刻んだ男 山田耕筈」再放送！

2015年10月18日(日)16:00~17:00 Eテレ(教育テレビ)

今年の創立記念日は日曜日ですが、テレビの前で校歌・学園歌を歌ってお祝いしましょう♪